

お子さんやお孫さんに ワクチンを勧める前に

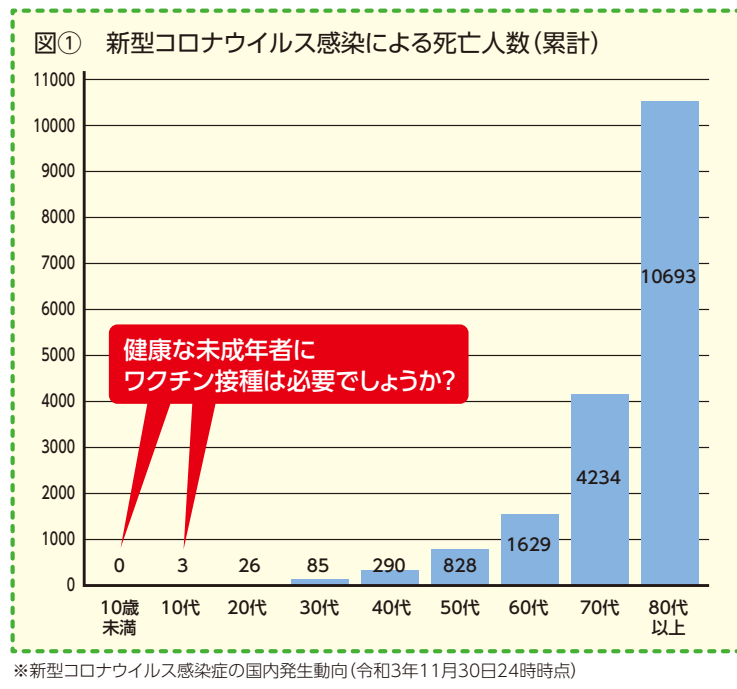
来年2月から12歳未満の子どもの接種が始まるかもしれない。わが子や孫に接種を勧めるのか。その判断材料となる資料やデータは全て厚生労働省のホームページに載っている。しかしその正確な情報を知らない人は意外に多い。ここでは厚生労働省のホームページから、接種前に最低限知っておきたい最新情報をピックアップして、今一度、未成年者の接種について考えてみたい。

厚生労働省ホームページから「未成年接種」について考える

未成年者のワクチン接種後 重篤者296人・後遺症6人・死亡者5人

未成年者（0歳～20歳未満）がコロナワクチンを接種するメリットは何だろうか？厚生労働省の資料（図①）によれば、未成年者のコロナ感染はこれまでに3人いるが、その内の2人は**重度の基礎疾患**があったことが分かっている。そしてもう一人はコロナ感染ではなく事故で亡くなり、その後のPCR検査で陽性反応が出たために「事故死」ではなく「コロナ感染死」扱いになったものだ（東京都発表）。つまり、**これまでにコロナ感染で死亡した健康な未成年者はほとんどいないし、重症化もほとんどしていない。**

これまで新たな変異株が出る。この状況を抱いた最大の要因は、国や自治体が躍起になって広めた「周りの人のために接種すべき」というスローガンではないだろうか。「思いやりワザ」製ワクチンを接種した4時間後に入浴、浴槽内で水没して亡くなったと発表されている。また、未成年者のワクチン副反応疑い報告はすでに**1408人**。必要なのはワクチンを打つことによる、多くの重篤者命の危険が切迫している患者や死亡者が出てしまっている。10月30日には13歳の少年がファイザー製ワクチンを接種した4時間後に入浴、浴槽内で水没して亡くなったと発表されている。

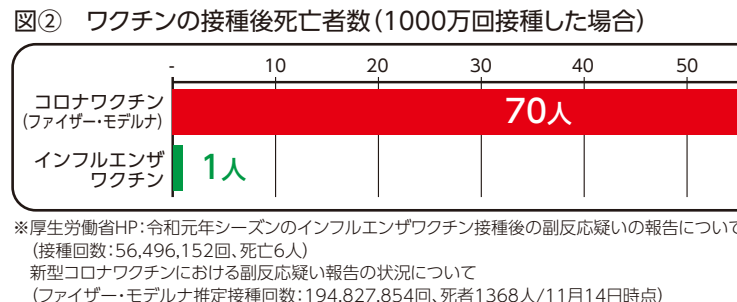


しかしその目的のために、子どもや若者連に自らの命や健康を賭けさせること自体がそもそも非常識ではないだろうか。大阪府泉大津市の南出市長は、大阪府立大学の井上正康名誉教授（分子病態学）から教示を受け、当初からこのような事態を想定していたため、若年層の接種に慎重な姿勢を示してきた。今後はこのような自治体も増えてくるかもしれない。

ワクチン接種と13000人超の死亡は 本当に関係ない？

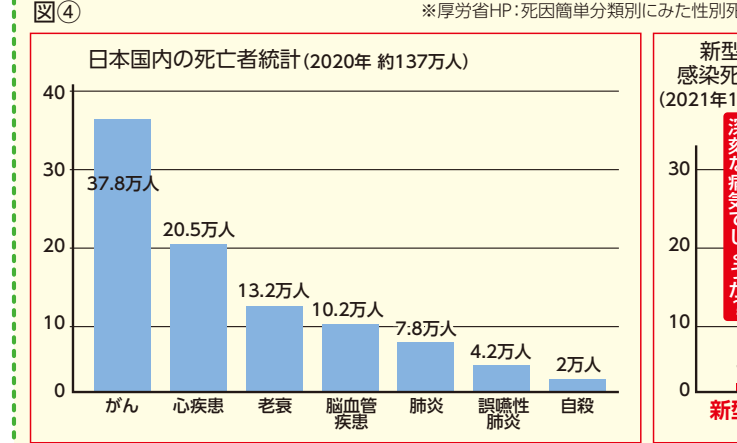
未成年者にとって有害なものはない。大人にとっても有害な可能性は、大人に比べても有る。接種後の死亡者の中で、医師がワクチンの影響を疑って厚労省に報告した事例が、11月26日時点で**1387人**（ファイザー製1331人、モデルナ製56人）に達している。しかしワクチン接種現場で突然死亡した場合も含めて、厚労省は一人として因果関係を認めない。つまり、厚労省のホームページに明記されている通り「**接種が原因で多くの方が亡くなったという**

「**これはありませぬ**。」という見解だ。そうだとすると、死亡した人たちはワクチンと関係なく、その時たまたま何かの病気で亡くなったことになる。しかし、それではなぜコロナワクチン接種後にたまたま大勢の人が死亡するの、インフルエンザワクチンでは、それが少ないのだろうか？（図②）その理由は「**たまたまの死亡**」ではないからと考えるのが普通ではないだろうか。そう考えると、コロナワクチンの接種そのものが原因で多くの人が死亡した可能性も考えざるを得なくなる。



POINT! 厚生労働省HPに掲載されている**コロナワクチン3つの事実**
 ①インフルエンザワクチンと比べて、**接種後死亡が圧倒的に多い。**
 ②接種した翌日までに死亡した人が**圧倒的に多い。**
 ③接種後死亡者の死因は、**血栓症や循環器系障害が圧倒的に多い。**

そして、この可能性は、ワクチン接種後の死亡者を「**接種後、何日に死亡したか**」で分類することで、さらに現実味を帯びてくる（図③）。もし本当に死亡した人達がワクチンと関係なく、たまたまその日に何かの病気で死亡したのであれば、毎日の偏りはさほど大きくないはずで、青線※のように、ある程度ならされた分布になることが予想される。しかし実際には接種した翌日までに死亡した人が圧倒的に多く、赤線のような極端な分布になる。この統計はワクチン接種と死亡との因果関係を示唆している可能性が高い。



もちろん個々の因果関係は分からないが、死亡者の死因も千差万別ではなく、**血栓症**（血の塊が血管を塞ぐ病気）や**循環器系**（心臓と、全身に血液を循環させる血管ネットワーク）障害が圧倒的に多い。この偏った分布にはまだ明らかにされていない何らかの**有害性**があり、それが原因でこれまでに健康な子どもや若者も含め、多くの人が死亡した可能性は決して否定できないだろう。

ワクチンの安全性は 2023年5月まで不明

厚生労働省ホームページに「ワクチンが不正出血や月経不順を起すことはありません」と明記しているが、イギリスでは生理関連の副作用を訴える報告が3万件以上上っている。アメリカでも同様の事例が多発しているため、米国立衛生研究所（NIH）が9月末から調査を始めている。生理不順や無月経、生理痛の増加、生理量の変化など

どの症状だけでなく、閉経した生理が再開したという副作用まで報告されている。日本国内においても不正出血や月経不順を訴える例が増えている。また10月には、**ファイザーワクチンを接種した女性の4割に、わきの下のリンパ節が腫れる**副作用が2か月続いていたとする調査結果も出ている。

ワクチン接種に関しては、他にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったり、厚生労働省も製薬会社も想定していなかったことが数か月の間にいくつも起きている。その理由は、今回のワクチンが人体に用いるのが初めてであり、有効性も安全性も2023年5月まで不明（ファイザー）の「**臨床試験中の実験**」だからだ。それは**人体への長期的な影響が誰にも予見できない**ことを意味する。厚生労働省「**審議結果報告書**」の中で

「**接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。**」と記載されている。ワクチンの安全性を確保する手続を**特別承認**で省略してしまっただけ、厚生労働省も今後数年に渡って何が起きるか分からないまま接種を押し進めているのが現状だ。

最後に想像してほしい。もしあなたの子や孫がワクチン接種後に突然亡くなったたり重大な健康被害に遭ったり後遺症が残ったりしたら、ワクチンが原因ではないかと疑ってしまうのではないだろうか？また「**因果関係なし・不明**」という発表に納得できるだろうか？そして子どもにも接種を勧めたことを後悔し続けるのではないだろうか？そのような悲しくてやりきれない思いをしている親御さんが実際に何人もいますが、これは決して他人ごとではない。

※この内容は、主に厚生労働省ホームページに掲載されている情報や新聞各社で報道された情報を基にしています。参考文献:『ゴーマニズム宣言SPECIAL コロナ論4』著者:小林 よしのり(2021年11月18日)



「簡単!10分で分かる 新型コロナワクチンの危険性」 井上正康先生講演会動画



ここでは、ワクチンの「**危険性**」の一部を紹介しました。掲載できなかった、**その他の詳しい情報は、下記ホームページをご覧ください。**

皆様からのご支援で活動しております。

右QRコードからもご覧頂けます。

<https://jccovid.net/>



メールまたは上記QRコードよりご意見をお寄せください

ご意見・感想をお聞かせください。 Eメール mail@dbank.jp